放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和2年2月17日　　事業所名　多機能型事業所ホープみさかえ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10		人数によってパーティションを利用したり工夫している。 配置を調整することもある。	
	2	職員の配置数は適切である	8	2	人数は適切であるが、支援力の差があり、配慮が必要である。	利用者に対し職員が少ないとの声もある。今後も採用を継続する。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	11		開放的かつ個に応じて利用の方法を抱えている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	9	1	理解が不十分または生かせていない所もある職員がいる。	長期休み時は時間が取りづらいとのこともあり、今後も採用を継続し、時間の取れるようにしたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7		全体で把握し改善に努めている。	把握したものを改善に繋がるようにしたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6		昨年度は公開を知らない方もいるので周知徹底が必要であると思う。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	4		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10		事業所内、外の研修へ参加できている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8		児童発達支援管理責任者に伝えている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7		他機関等で行ったツールの結果等を保護者の同意のもと使用し、支援に生かしている。	共有の不足があるとの意見もあり、誰もが共有できるような環境を作る。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		課題に対して会議で意見を求め、取り入れている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		様々な意見を取り入れてマンネリしないように心掛けている。 段階に応じて変化させている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8		自立課題が充実できるようにしている。	個に合った支援することから、マンネリしている部分もあるため、考慮したい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	8		個の特性、他児との相性など考慮し、計画している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	3	前日の振り返り後に行っている。振り返りができない時は個別に伝えている。	できない時もある。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	3	翌日に振り返りができるようにしている。	時間がない。できない時もある。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		なるべく具体的に日誌を書くようにしている。 記録を振り返りながら支援の改善に努めている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7		モニタリング、支援者会議の実施を行い、必要があれば見直しを行っている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	7			地域と交流できる場の設定をより取り入れていくことができれば良いのではないか。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		担当職員が児童発達支援管理責任者に現在の様子や気づきを伝えている。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	8		問題が起こった時になるべく早急に対応、解決できるように児童発達支援管理責任者に報告し、学校等と連携を図っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	2	保護者と連携を取っている。	主治医と直接連絡する体制はないが、取り入れることで安心した環境になると思う。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5		児童発達支援管理責任者が行っている。移行支援シートや各園との連絡をとり、情報共有を行っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5		児童発達支援管理責任者が行っている。必要に応じて、保護者の同意のもと、情報を提供している。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5		研修を受けたものが会議等で共通理解できるようにしている。 助言を受けることや研修へ参加して支援に生かすように努めている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		6	事業所外への療育はある。	現在、交流の機会はないが今後取り組んでいきたい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	6		参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		お迎え時に担当が様子を伝え、保護者の話を職員間で共有している。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	1	4	実施に向け研修会に参加している。	準備中である。

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		利用開始時に行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		自ら話すことが苦手な保護者には職員が気にかけ、何か不安や悩みがないか聞くように取り組んでいる。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		7	夏まつりやクリスマス会はある。	保護者会がない。 左記以外にも必要性を感じる。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7	1	苦情があった際はすぐに対応し、体制の整備を適切に行う様、努めている。	開示等をしっかり行いたい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		部署以外にも年4回事業所全体の会報を配布している。	
	35	個人情報に十分注意している	9		十分注意し、取り組んでいる。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8		絵カードの使用など、個に応じて行っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	3	夏まつりやクリスマス会は行っているが、より地域への参加呼びかけ等を行っていきたい。	アイデアはあるので実行したい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8		マニュアルえを策定し、スタッフ間での共有と訓練を行っている。	周知しているが、理解に不十分な保護者もいるため徹底したい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	11		消防署立会の訓練も行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9		研修への参加、職場内研修が年数回行われている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6		対象者がいない。 他の支援で対応することができないか、様々な方法を検討している。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	2	年度初めの確認や必要な際は連絡をお願いしている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8		作成したものを全職員が共有できるようにし、対策を検討している。	